

平成28年度 第5回酒田市元気みらいワークショップ



日時 10月22日(土) 14:00~17:00
 場所 平田総合支所3階 広域行政組合議場
 発表者 公募に申し込んでくださった19歳から55歳までの12名の方々

阿彦 さおり	高校講師
小野寺 雅昭	中学教諭
半田 優貴	会社員
佐藤 美和	日向地区地域おこし協力隊
佐藤 百恵	会社員
皆川 未希	東北公益文科大学2年
早坂 美穂	団体職員
森 保弘	自営
池田 友喜	会社役員
鈴木 健史	会社役員
山崎 侑斗	東北公益文科大学2年
荒生 多喜	団体職員



コメンテーター 丸山 至 酒田市長
 後藤 仁 酒田市議会議長
 村上 幸太郎 酒田市教育長
 日下部 諭紀 酒田青年会議所
 坂本 由美子 山形新聞社酒田支社編集部長
 原田 清廣 ふるさと新井田川を愛する会代表
 伊藤 爾 酒田のラーメンEXPO2016実行委員会

ファシリテーター 遠藤智栄 氏
 仙台市在住。東北各地でまちづくりやNPO、ワークショップ等を支援。

■事業提案発表会

今回は、ここまで4回のワークショップを通して、チームに分かれて検討してきた6つの事業について提案発表していただく回でした。

○今回の流れ

- (1) 各チームの事業提案を発表 6テーマ×15分
発表後、コメンテーターから質問や意見をいただきます
～休憩～
- (2) ポスターセッション 20分
会場内・廊下に6テーマのポスターを掲示、
ポスターの前で質疑応答や意見交換
- (3) 会場に戻って、講評
- (4) 参加者のふりかえり、一言



司会 永田市長公室調整監

6チームの提案内容は以下のとおりです。

No	テーマ	▲困っている現状	▲課題	■提案内容	●目標	●効果(短期、中期)	発表者
1	若者と施設活用	<ul style="list-style-type: none"> 施設が活用しきれっていない アーティストの発表の機会が少ない アーティストの活動が知られていない 	<ul style="list-style-type: none"> 賑わっている場所が少ない アーティストの発表の機会が少ない 	いきいきとした表現者があふれる街へ	<ul style="list-style-type: none"> 旧港座などを活用したアーティストのイベントへの助成 	<ul style="list-style-type: none"> 施設が活用される 賑わいの創出 アーティスト発表の場の増加 	佐藤美和 佐藤百恵
2	市民が主役のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 市民が市政に関心なし 酒田市の事業内容を酒田市民が知らない 行政サービスには限界がある 	<ul style="list-style-type: none"> 無関心層と行政の接点がない 市民参画意識が低い 	酒田版人生ゲームでまちづくりに興味をもってもらう	<ul style="list-style-type: none"> 酒田市民全員が酒田市の現状を知ってもらい、市民が様々な事業を提案できる 	<ul style="list-style-type: none"> 市政に対する市民の関心層がアップ 市政に関心をもち、自発的にまちづくりに参画する市民が増える！ 	山崎
3	空き家キラキラ人口増加構想	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少…死亡数1,513人、出生数718人 空き家増加…酒田市把握だけで1,660戸 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化率…酒田市31.4%(ある学区では41.78) 出生数減少 空き家の老朽化…火災や倒壊の危険性増。 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家を体験宿泊施設として活用 空き家を学生向けシェアハウスに 空き家解体費用補助制度 	<ul style="list-style-type: none"> 酒田ファンを増やす！ 人口増加！若い世代がいきいき 地域活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 交流人口(1週間から1か月滞在) 『住みたい!』と思う人が必ず増える！ 	森 荒生 皆川
4	ITエンジニアの育成	<ul style="list-style-type: none"> ITエンジニア(プログラマ)の不足 →起業とITがSETであるため 起業する人(チーム)に技術者が必須←新しい産業(起業)が起きない ←若者流出、地方衰退 	<ul style="list-style-type: none"> 学校で学んで身に付くものではない。 →場所、機会が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 情報プラザの復活(NEO) 子ども達に遊びから入るプログラミング教育 新しい技術を仕事とする大人の常駐 公益大との連携 育成→採用→新規起業・新分野への進出→採用増→育成のサイクルを作る 	<ul style="list-style-type: none"> 高校卒業後ITエンジニアを目指す人→2020年までに300人(2020年から義務教育化) 	<ul style="list-style-type: none"> 短期:IT人材が増加 中期:新しい産業の助けとなる 人口流出の歯止め←若者の仕事増 長期:日本版シリコンバレー 	池田
5	酒田愛不足～みんなが観光大使～	<ul style="list-style-type: none"> 若い子たちを中心に酒田を深く知らない 名物土産、名物料理が少ない Uターン、Iターンが少ない! 小中学生は酒田の勉強しているがそれを大人が知らない 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の大人と関わる機会が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 対象:小中学生・高校生 酒田をPRするために小中高生で「酒田のいいところ探し」をして、希望ホールで大人の前で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 酒田市民がどこに行っても酒田をPRできるくらい酒田を知っていること 「やっぱり酒田がいいな～」と思える街づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 短期:酒田のいいところを発信してもらえる 中期:観光客が増える 長期:Iターン、Uターンが増える、人口が増える 	半田 早坂
6	新井田川の中心で酒田愛を叫ぶ!!	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な催しにつながりにくい 市民を巻き込みにくい 若者が(部活や勉強に)忙しくて誘いにくい 廃校、廃墟が活かしきれしていない 酒田に対する愛着が薄い 酒田の歴史を知らない 	<ul style="list-style-type: none"> 市民に愛着を持ってもらう 酒田の歴史を知ってもらう 新井田川をただの川にししない 川を使って観光につなげる 昔の活用方法を復活させる 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客を対象としたイベントや景観 	<ul style="list-style-type: none"> 川のにぎわい(人、物、文化が集まる) 	<ul style="list-style-type: none"> 町がキレイになる 愛着がわく 酒田に帰ってきたくなる 	鈴木 阿彦 小野寺

今回の発表会の会場は、旧平田町議場で、現在は酒田地区広域行政組合の議場になっているところです。

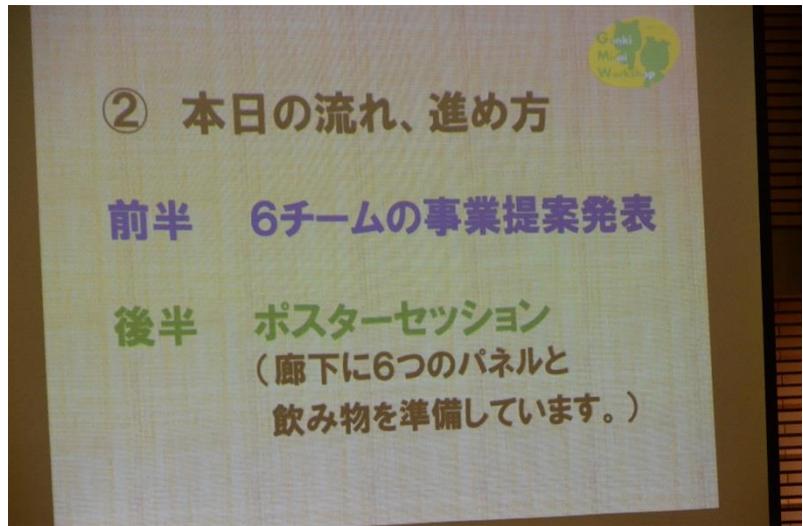
市民のアイデア・意見について、様々な人たち

かんかんがくがくが
が尻々々々の議論を行う、それはまるで「議会の原風景」なのではないか!という思いから議場での発表会を企画しました。



チェックイン

ファシリテーターの遠藤さんから、元気みらいワークショップの趣旨・これまでの活動経過、本日の発表会の進め方について説明がありました。



事前に付箋を配布しており、コメンテーターの皆さん、発表を聞いて感じたことや意見を記入してもらいます。

◆これまでのワークショップの様子 第2回

Genki Mirai Workshop

第2回 7/23(土) 市役所1階 フリースペース 14:00~16:30

①一人ひとりがアイデアを検討
②マグネットテーブルでお互いの案を繋げました

◆これまでのワークショップの様子 第3回

Genki Mirai Workshop

第3回 8/27(土) 公益研修センター 中研修室 14:00~16:30

①提案シートにアイデアを見える化
②お互いに移動しながら意見交換—市長も参加!

いいね!

1 「酒田愛不足～みんなが観光大使」 発表者 半田優貴さん、早坂美穂さん



現状、課題



酒田愛が足りない
↓酒田愛不足とは??
活気がない…

- ①人口減少率が高い
- ②Uターン、地元に残る人少ない
- ③名物、特産品がない
- ④代表的なキャラクターがない



⇒3、4に関しては、ないのではなく、PR不足?
上手にPRできれば1、2も解決できるのでは?

私たちの思い



子供時代から酒田を
見つめ直し市民が自慢げに
酒田を語りPRできるようにする
Uターンや地元に残る人を
増やし活気ある街に

酒田市中長期観光戦略



“新酒田物語”
広めよう“酒田自慢”
増やそう“酒田ファン”



提案内容



【大人は何も知らない! ?
酒田のいいところ発見】

場所：希望ホール

対象：小学生、中学生、高校生

事前準備として…

- ・おもてなし講座、歴史講座
- ・酒田の食を味わう
- ・会社見学、出前講座
- ・公益大学とのコラボ

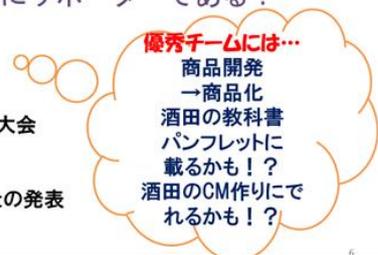
既存事業に繋がられる!

具体的なテーマ



◎ポイント⇒形式的なもの×
子供たちの意見や考えを尊重すること
子どもの世界が大事!
大人は、基本的にサポーターである!

- EX)
- 新しい文化の発見
 - 商品開発
 - 海・山・川などの自慢大会
 - 酒田百景の紹介
 - 酒田検定を作ろう
 - 酒田をPRしてきたことの発表
 - 企業訪問



最後に…



【効果】

短期: 酒田のいいところを発信する人が増える
中期: 情報を元に酒田を訪れる人が増える
長期: 酒田に魅力を感じIターンやUターンが増える

小さい頃から、酒田の良さを知ること「酒田への想い」を持つことができる。
その子どもたちが、将来酒田以外の土地で活躍する時に酒田の良さを伝えそれを知った方が観光客になってくれる。
訪れた方が「いい街だ」と移住したり、友人にPRしてくれることを期待する。

時間はかかりますが、
“私たちの思い”
“酒田市の思い”
を果たします。





1. 困っている現状



①酒田市民が市政(議会)に関心、理解がない・暇がない

- ・議会が身近に感じない
- ・期待感が少ない
- ・政治・行政に興味がない
- ・個人の意見は行政に反映されにくい
- ・忙しくて市政について考える暇がない
- ・市の事業が真面目である

②酒田市の事業内容を酒田市民が知らない

③行政サービスには限界がある

生涯・公共料金、結婚・育児、教育、医療・福祉、土地・住宅

3. 提案内容

(何を、対象、どういう仕組みで、どうするか、テーマ関係者、パートナーシップ、担当部署など)

酒田版人生ゲーム

Point!

ゲームの中で、就職や結婚など人生に関わるさまざまな出来事を疑似体験し、そこに繰り広げられる波瀾万丈なもう一つの人生に一喜一憂することができる。

<利点>

酒田市の市政や事業の仕組みなどを知ってもらい、関心・理解してもらう



酒田市の現状や課題を知ることができる

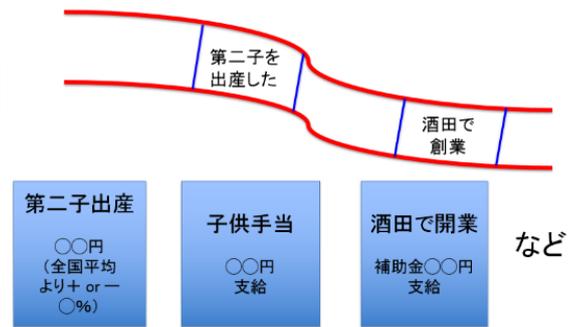
発案者

酒田市民
(市政に関心有り)

協働者

酒田市役所、民間

例えば...



3. 提案内容

(何を、対象、どういう仕組みで、どうするか、テーマ関係者、パートナーシップ、担当部署など)



人生ゲームを作るPoint

- 子どもからお年寄りまで楽しめるものにする！
- 何と云ってもおもしろいものにする！
- 酒田の魅力を入れる！
- 酒田市の施策を入れる！

3. 提案内容

(何を、対象、どういう仕組みで、どうするか、テーマ関係者、パートナーシップ、担当部署など)



人生ゲームの内容提案者は・・・

各世代から代表者を選出 → **公募制**

10～20代：10名

(中高生→県・市の教育委員会、各学校へ協力依頼)

30～40代：10名

50代～：10名

計：30名

4. 目標



酒田版人生ゲームをきっかけに、酒田市民全員が酒田市の現状を知ってもらい、市民が様々な事業を提案できる

5. 効果 (短期、中期)



市政に対する酒田市民の関心層がアップ

酒田版人生ゲームを通して、酒田市の政策や事業、行政サービスを分かりやすく市民へ公表できる



市民が市政に関心を持ち、自発的にまちづくりへ参画する市民が増える！

3 「ITエンジニアの育成」が創る酒田の未来」

発表者 池田友喜さん



初めに “起業体験イベント” Startup Weekend 山形” の風景



彼が抱えていた問題点

実際にモノを作る
ITエンジニアが居ない

= 起業ができない(泣)

現状の課題 1

ご多間にもれない地方が抱える課題。

- 100 高校生
- 90 卒業後、県外に出て行く
- 63 そのまま戻ってこない

現状の課題

現代風の起業が起こりにくい

作れる人が居ない！少ない！

2.何をするのか？

ITエンジニアを増やす

↓
子供向けのITエンジニア養成施設を作り運営をする。

日本の成長戦略で計画されているIT人材の不足を補うために2020年から義務教育化。アメリカ合衆国や他の国々でも小学校からの義務教育化が進められる。イギリスは2014年から既に義務教育化されている。

目標

高校卒業後
ITエンジニアを目指す人を
300人、
2020年までに！

その方法と必要なモノ

子供向けプログラマ養成施設
NEO情報プラザ（仮称）の設立
遊びながら学ぶ
チャレンジすることを学ぶ
イノベーションを起こす（起業）

その方法と必要なモノ

場所が必要

- ・子供が通える場所
- ・広々とした場所（そこは田舎らしく）
- ・プログラマが常駐できる場所（企業が入れる）

モノが必要

- ・子供が遊べるICT関連のモノ
- ・パソコンやIT機器（3DプリンタやVR）
- ・高速なネットワーク環境

本日のまとめ

1. 地域課題を解決する為
2. ITエンジニアを養成する
(2020年まで300人)
3. 遊ぶ・学ぶ・イノベーション
スタイルでの場所作りをする
(民間主体)

4 「人口増加構想と空き家減少対策」

発表者 森保弘さん（荒生多喜さん、皆川末希さん）



現状



人口減少

平成25年の自然減少は795人(死亡数1513人 - 出生数718人)
平成52年の出生数は平成22年の約半分まで減少すると見込まれている。

空き家の増加

酒田市全体で約1660戸。
住んでいないと老化が進み、火災や倒壊の危険性が高まる。



空き家を減らすことは防災にもつながる

どうする人口？



空き家に移住してもらえば一石二鳥じゃない？

酒田市では移住者に補助金
購入=100万、修繕=50万 (H27年は3件、H28年は6件)

もっと増やすには 介

【人口増加対策】

1. 自然豊かな環境、子育てしやすい、住みやすい酒田をもっとPR
2. 交流人口を増やし、酒田の魅力を体験してもらう
3. チラシを漫画やカラーにしたりして目立たせる
4. 低年収でも子育てできる環境整備

どうする空き家？



【空き家減少具体策 その1】
空き家を利用し体験宿泊施設として利活用

- 市で購入もしくは借り上げ、体験宿泊できる施設に改装。
- 海・山・街中の3ヶ所を選定し、移住を促進させる施設に。



どうする空き家？



【空き家減少具体策 その2】
空き家を利用した学生向けシェアハウス

DIY可能な空き家をシェアハウスとして利用する場合、代表入居者に対してDIY費用補助。



どうする空き家？



【空き家減少具体策 その3】
空き家の解体費用補助

酒田は区画がきちんとしているので、更地になると売れる傾向。
更地になっていると新築希望者が購入、新しい家族が入って来ることで町の活性化にも役立つ。



どうする空き施設



【廃校利活用案 その1】
体験宿泊施設に改装



お風呂は新設するが、その他は学校らしさを残す。
体育館やグラウンドがあるので、各種団体の合宿などに利用。

【廃校利活用案 その2】
大人の学校として再利用



学校だった施設は音楽室・図工室・家庭科室などがあるので、そのままバンドや歌の練習・芸術作品づくり・料理教室など、お金をかけないで利用可能。

ご清聴、ありがとうございました

5 「新田川を中心に酒田愛を叫ぶ!!」

発表者 小野寺雅昭さん、阿彦さおりさん、鈴木健史さん



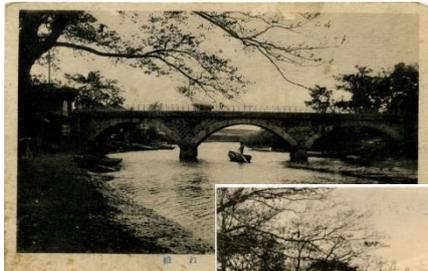
私たちの思い

- ・ **ありたい姿**
 1. 川辺ににぎわいをつくる ←酒田愛の拠り所
 2. 新井田川周辺住民の手で活性化
 3. 新井田川周辺の歴史・風土を再発見し、愛着を持つ
 4. 川を使って観光につなげる
 5. 川への愛を深め、環境をよくする
- ・ **現状(課題)**
 1. 「心のふるさと新井田川の会」での清掃・花植栽活動、桜ライトアップ等 献身的な取り組みがあるが、住民の参加は全域にまだ広がらない。
=体系的な活動のシステムがない
 2. 山居倉庫(夢の倶楽)等が点であり、歴史的遺産や風土に関心がない
(舟運、亀ヶ崎城・町奉行所、めがね橋などは、重要な遺産)
=酒田愛・観光の土台づくりが弱い
 3. 新井田川を利用した活動・イベントが少ない
(カヤック・釣りはあるが、わずかのふれあいしかない)
=集合のインパクトがない
 4. 特に若者(小中学生も)の地域活動参加が少ない(部活一辺倒)
=将来を担う若者に活躍の場が少ない

提案内容

1 新規事業

- (1) 新井田川の川辺を美的に
 - ① 桜回廊を全域に(約2キロ・例 馬見ヶ崎川)
 - ② 散策路の整備、憩いカフェ(営業日限定)、遊歩道、緑地、自然公園(カモ・植物など) 釣り場
 - ③ 船着場、花壇メッセージ、特設ステージ
- (2) イベント
 - ① ぶら探・カヤック・灯籠流しのリニューアル
 - ② 酒田祭り(山鉾)・酒田甚句流しを新井田川岸へ流し、若者ダンス・踊り文化の中心へ
- (3) 歴史を活かした観光振興
 - ① ストーリー掘り起こし → 酒田ミュージアム
 - ② 探索コース設定、看板、歴史文化伝道師(人力車の中高校生ボランティアガイド)
 - ③ 駅前拠点と連結コース開発
 - ④ 江戸の絵図、絵はがき・古写真の利用(庭園・景観・寺社の再評価)景観の創造



2 組織体制

- (1) 総合プロジェクト型へ
 - ① 推進協議会の立ち上げ
関係団体=「ふるさと新井田川を守る会」、コミ振、自治会、小中学校、周辺企業、カヤック団体 県(河川管理者)・酒田市が協力。
 - ② 主要活動3つに分かれて活動
内容に応じて、歴史、文学、スポーツ団体等が入る。
活動ごとのワークショップ
 - ③ 地区ごとに新井田川流域を分け、ワークショップ
 - ④ 活動全体を計画(月、季節、1年、3年、10年)
 - ⑤ すぐできる計画から実行
- (2) リーダー任期制
 - ① 推進役は、継続も可能であるが、新たな人材を受け入れて加速する
 - ② 組織改革は、必要に応じ検討。むしろ改革あってこそ発展。地域住民からの公募制を採用。
- (3) 起爆剤「新井田祭」の企画 平29年7月下旬か?
8月上旬 今秋に具体案 → 予算化 → 4月より準備
 - ① 新井田川プロジェクト立ち上げの宣伝
 - ② ステージを山居倉庫に設置 山居に出店
→ 風の会・チアリーダー(ダンスサークル)甚句流し踊り
 - ③ カヤック実施(10艘×2人)20人くらい
・推進協議会立ち上げ・3つの部会
 - ④ サークル参加(体験型)
 - ⑤ 実行委員会を組織 → 次のプロジェクトの予備組織

6 「若者と施設利用」

発表者 佐藤美和さん、佐藤百恵さん



元気みらい ワークショップ

ありたい姿

- 利用度が低い施設を活用することでにぎわいを創出する
- 市民が街に出かけたくなるしかけをつくる
- アーティストが活発に活動しやすい環境をつくる

現状

- 施設が活用しきれていない
- 賑わっている場所が少ない
- アーティストの発表の機会が少ない
- アーティストの活動が知られていない

『アーティスト』
↓
にぎわいを生み出す人

元気みらい ワークショップ

利用者…半額で施設を利用できる

建物所有者・建物経営者…利用者増加

市…にぎわい創出

利用者の1/2 × 1/2 を負担
経営者も1/2 × 1/2 を負担

利用者

利用料

~~2000円~~

1000円

建物所有者
建物経営者

←

500円

市

対象エリア → **中町、台町**

対象建物 → **民間施設**

例えば…
港座、清水屋催事場、
個人所有ギャラリー
など

対象活動 → **公演、発表**

コンサート、ファッションショー、展示など…

八戸ポータルミュージアム『はっち』

各チームの発表に対してコメンテーターから、コメントをいただきました

原田 清廣 氏 ふるさと新井田川を愛する会代表



いいね!

坂本 由美子 氏
山形新聞社酒田支社編集部長



丸山 至 酒田市長

村上 幸太郎
酒田市教育長



伊藤 爾 氏
酒田のラーメンEXPO2016
実行委員会



後藤 仁 氏 酒田市議会議員



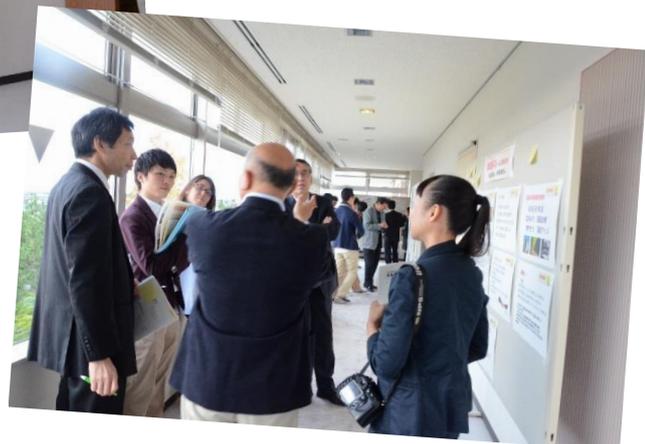
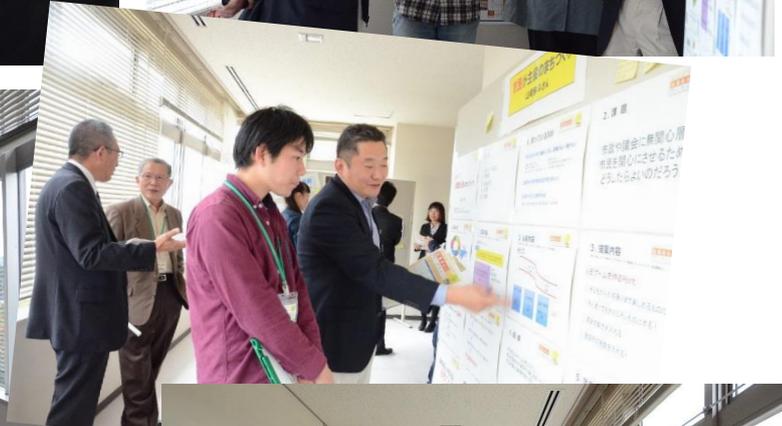
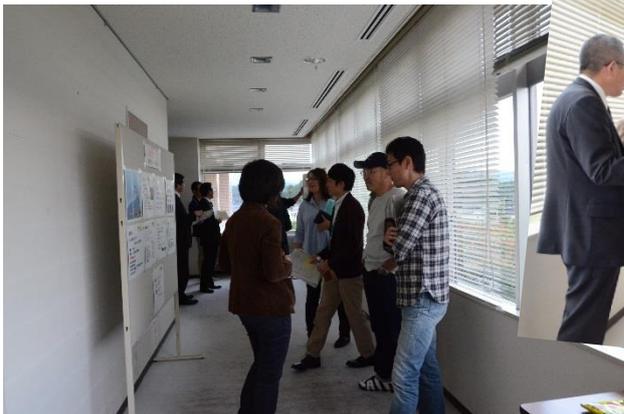
日下部 諭紀 氏
酒田青年会議所



ポスターセッション

事業提案のあと、各チームの提案ポスターを前に、「発表者」と「コメンテーター」と「発表会を見に来てくれた方」が一緒になって、ポスターセッションを行いました。

発表中にメモした付箋を貼りながら、意見交換。異なる視点や同じ悩みを抱える人の声など、さまざまな意見が飛び交いました。事業の種が更に大きく成長しているようでした。



ふりかえり

市長から全体に対してコメントいただきました。



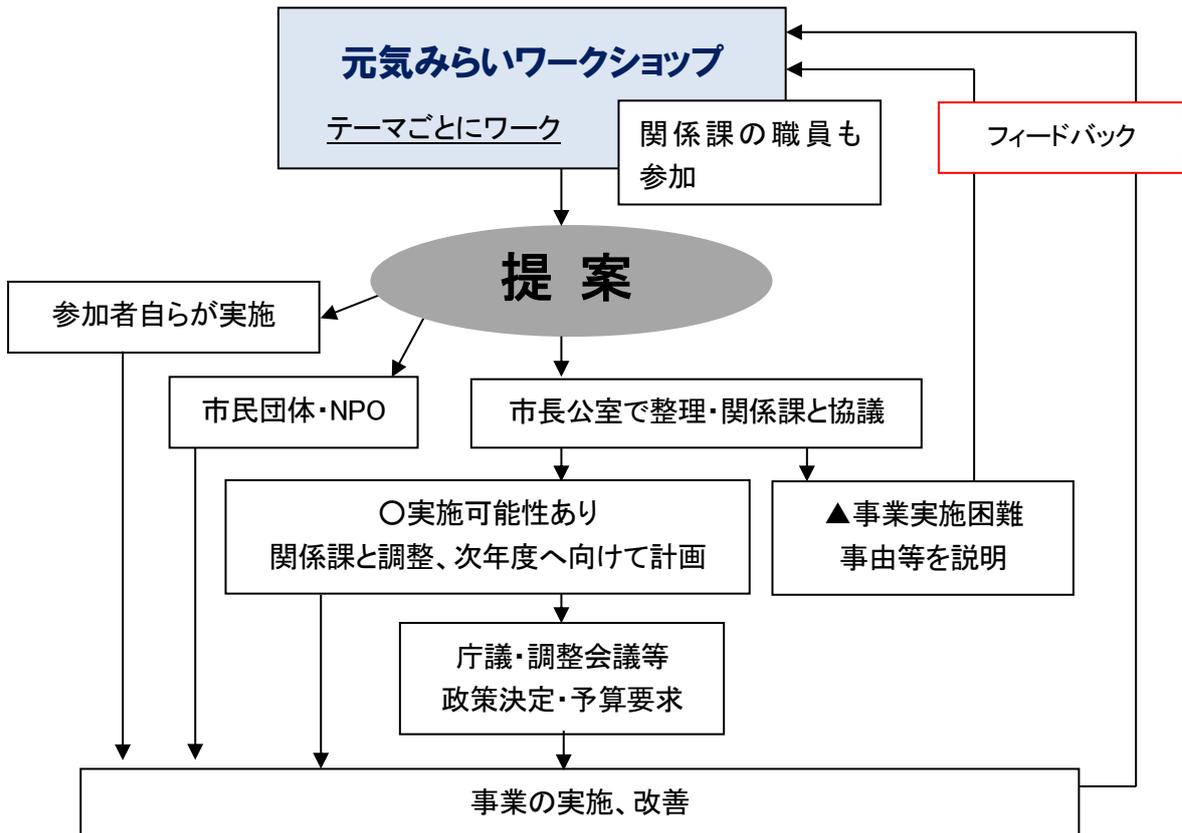
最後に、元気みらいワークショップ参加者から、5ヶ月間のふりかえりをそれぞれ述べていただきました。





今後の予定

- 提案いただいた内容を、市役所の関連各課と参加者、市長公室と一緒に、「実現可能か、どのように事業化するか、既存事業へアイデアを取り入れて改善できるか」を検討します。
- 実現可能な提案については、予算要求し、来年度から形になるように進めていきます。



元気みらいワークショップ参加者のみなさま、5ヶ月間本当にありがとうございました。ワークショップは終了ですが、ここから事業化に、向けた調整などが始まります。その話し合いなどにも参加していただくこととなりますが、よろしくお願いいたします。

